

令和2年4月にオープンした大池けいあい保育園は、新築設計の時点から感覚統合の考え方を取り入れて環境構成をしています。

保育方針では、知的教育は一切行わず、遊びを中心とした体験学習の毎日を目指し、安心して失敗しながら子どもたちの意見や発想、発言を出来るだけ活かしながらのアクティブラーニングの活動をすすめています。それを支えるための保育士の関わりとしては、「おどさなくていい、せかさなくていい、比べなくていい、叱らなくていい」ように準備し、「待ってあげられる」ことを大事にしています。

- ① 保育室、ホール等の子どもの居住空間の天井は、全て吸音ボード（穴あきベニアの上に吸音材を敷き詰めた構造）。聴覚過敏の子どもが部屋の残響音・反響音で苦しむことを減らしたいと考えました。玄関ホールや階段から部屋に入ると声や音の反響が劇的に減ります。
- ② 保育室および廊下の床は、全てヒノキの無垢材。足の感覚機能を育てます。
- ③ ホールの天井には、ステンレスバーを設置。前庭覚機能を刺激する保育展開に活かせるようにターザンロープやブランコ、うんていなどが設置できます。
- ④ 部屋の色調はナチュラルに。視覚過敏の子に配慮するため、原色系が壁面を構成しないように、木材と白を基調とした壁面にナチュラルな色合いのものを中心に部屋の構成しています。棚に置く引き出しや道具箱類にも赤などの原色がまぶしく映らないようにナチュラル系の色を配置しています。
- ⑤ 部屋はシンプルに。保育中はお話や給食に集中できるように、時期によっては遊具棚に布をかぶせます。遊具が視界に入って落ち着かない場合があるためです。
- ⑥ 制服、かばん、体操服等、全て自由。同じ色でそろっている場面などは全くありません。
- ⑦ ベッド用の厚いマットレスが4枚。雨の日などに走り回って落ち着かない子のため、トランポリン代わりに跳んだり回ったり、立てた状態で蹴ったりパンチしたりと前庭覚や固有受容覚が同時に刺激されるため、動きたい衝動の解消に効果的です。
- ⑧ 裸足で外遊び、泥遊び。入園したばかりの子は裸足での外遊びに慣れていなくて、足裏が痛がったりしますが、夏のプールの時期には夢中で泥遊びをするようになります。
- ⑨ 毎日、リズム遊びと外遊び。保育活動としては、毎日ピアノに合わせて30分ほどのリズム遊びと園庭での外遊びを日課としています。リズム遊びで走る、止まる、跳ぶ、まわるなどで、柔軟性や瞬発力を育むことを行います。外遊びでの鬼ごっこなどで遠い場所から近い場所へ視点を動かし視力を伸ばすこととキョロキョロしながら視界を広げることを狙っています。さらに紫外線に当たりながら、ブルーライトに侵されない眼力を育てたいと考えています。
- ⑩ 0, 1歳児の園庭には、チクチク、ヌルヌル、べちゃべちゃの感覚を存分に感じられるように芝生と泥山、砂場を設置していて、足、太もも、お尻にも刺激を入れると同時につま先の動きを発達させる目的で山登りや水遊びを存分にさせています。そのため、水道も使い放題。
- ⑪ 紙おむつの子も保育園に来たら布おむつに替えるようにしています。布おむつは業者からのレンタルで、月額4,000円（0歳）です。不快と快の感覚を感じる毎日を保障することを大事にしたいと思っています。
- ⑫ 手づかみ食べ。0歳児期の大事な感覚として、手づかみ食べを保障しています。遊んだ後の片づけから着替え、給食への活動の切り替え時間にゆったりと余裕を持ち、焦らず、せかさなくていいことで、心地よく食事時間を迎えられます。そして、思った通りに両手を使って心地よく食べることで満足を得られるようにしています。

- ⑫ 小さな声で語りかけ。3～5歳児の保育室は大きなワンフロアを高さ120cmの荷物棚で仕切って3教室にしています。そのため、部屋の音が反響しないとはいえ、保育中の大人の声が大きくなれば子どもの声が大きくなり、フロア中がうるさくなることが想定されます。そこで、「大人の声の音量を考えよう」と、小さな声で語りかけることを申し合わせています。
- ⑬ 2m以内で絵本。絵本を読むにあたり、子どもたちの視力と視覚刺激を考えて、必ず約2m以内に集まって、子どもの視力の範囲内で背景の視覚刺激を減らして読み聞かせをしています。机に座らせたままで絵本等の読み聞かせはいたしません。
- ⑭ 攻撃性の発散のため。〇〇をやっつけよう。〇〇でたたこう。〇〇を投げつけよう。など、各クラスで様々なストーリーと仕掛けが作られ、子どもたちのエネルギー発散に試行錯誤です。鬼だったり、お化けや幽霊だったり、恐竜だったり、黒ビニールで作務衣を作り忍者になって修行と題して、巧技台やはしご、平均台、すべり台、鉄棒を使って渡る、くぐる、よじ登る、飛び降りる、飛ばす、受け取る、振り回す、引き上げるなどの活動を繰り返し広げていました。
- ⑮ プール遊び。園庭に5m×3mのプールを設置し、水遊びをたっぷり楽しむ中で水の抵抗を感じたり、脱力や浮遊感、バランス感覚等が育つと共に心肺機能を育てられると思っています。
- ⑯ 乳児期のリズム遊び。毎日、心地よくマッサージができる信頼関係と声掛け、ふれあい遊びを行っています。つま先の育ちや土踏まずの形成、体幹を育てるために月齢に応じてハイハイ、高ばい、つかまり立ち、歩く、走る等が出来るようにホールでのリズム遊びやホールの段差登り、山登り、でこぼこ地面でのハイハイ遊びなどを積極的に取り入れています。